



114
A 2143
2



造幣規則

第一条

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

造幣寮地金局より五月十六日、西洋千八百七十二年

号七月三号を以て掲載せし、これを除くの外、毎朝

十時より午後一時まで地金局より、その日、

と

休暇表

毎日曜日

正月

一日ヨリ
三日ヨリ

正月七日

正月十五日

三月三日

五月五日

七月七日

七月十六日ヨリ



九月九日

九月廿二日

十二月 廿六日ヨリ
三十日ニテ

第二條

萬一非常之變事ふりて造幣之体むと一可_レ付
白福地金_レ交_レ取_レ力_レを_レ以_レる_レ處_レ—

但此場合_レ於_レ之_レ速_レ小_レ其_レ由_レを_レ布_レ告_レせ_レ—

第三條

品位并價共詳明あり_レる_レ銀地金并_レ外國金貨帶_レ又
百五十オンス、下口_レ 一貫二言
四十二文 銀地金并_レ日本_レ金銀外國

銀貨帶_レ又_レ二十オンス 九十六貫五百
六十目 以上の高あり_レる_レ地金_レ白長
即_レ造幣權頭_レ專_レ之_レを_レ交_レ取_レる_レ處_レ—

第四條

品位并價共詳明あり_レる_レ銀地金并_レ日本_レ或_レ外國
の貨帶_レ又_レ何_レの_レ交_レ取_レる_レ試驗熔解_レ之_レを_レ折_レ—_レる_レ品位
と價_レと_レ試_レ明_レ—_レ造幣適當_レと_レ交_レ取_レる_レは_レ之_レを_レ交_レ取_レる_レ—
但_レ之_レを_レ交_レ取_レる_レ三條_レと同_レ様_レた_レる_レ處_レ—

第五條

右試驗熔解_レの_レを_レ折_レせ_レ—_レる_レ銀地金_レ造幣_レ不_レ適

第九條

金銀混合と地金 （以下） 五五のオンストロー
（以下） 四四のオンストロー
以上の言ふは造幣寮に於て之を貯分持
の正し價と定むる場合と之を定むる場合

但ち材料と金銀混合の多寡を以て之の時
於て之を定むる場合

第十條

一圓銀鑄造と金銀の外銀地金を造幣寮の都合
に於て之を定むる場合

紙銀十六の割合あり

第十一條

向後廢換金 日本新貨幣は千五の正材料を以て
出さるる量目丈の價を以て再鑄するに依る

第十二條

金銀地金を試鑄多持のらありては其位出さるるは
大板造幣寮に於て之を造るる場合と之を小持
の造るる場合と新造幣と持はるる場合と異論あり
左の證を裏面に記載する造幣規則書の（紙銀の

此證書表面に造幣規則
の記述も自分の姓名と子記しを以て右側は場とす之哉
後あり

受取書雛形

證

幸未何番

品位未定

印

一金銀地金何行

此證書表面に造幣規則
記載あり

右に高直面を記載し規則を以て造幣の
為に右に造幣局に送るべき旨を以て子記し

但新貨幣造幣局の多し造幣局に利

申城直り多し

年号月日

後
長官姓名印
為幣局
頭取姓名印

所持人名宛

右證書に神戶移換の日所より所用の幣造り
百枚に長崎造幣局に送る日所「運」あり
右枚あり

第 十三條

大坂を除くの外各開港場と在りて、日千貨幣及外
 國貨幣又ハ金銀地金と細色造幣と宜玉者ハ定
 日數三千の外港進口數并運賃危險積戻等九の畧
 表出ル所也

地名	往返日數	運賃并危險積戻料
神戸大坂迄	二日	百廿〇、二五
横浜ヨリ全	十五日	百廿一、二五
長崎ヨリ全	十五日	百廿一、七五
新潟ヨリ全	三十日	百廿四、二五

米穀ヨリ全 三十日 百廿三、二五

第十四條

一圓銀造の限地金造幣案を後方及改造
 の手續を都て此造幣規則内を以て

第十五條

限地金を計量ハ第三條と同様たる所

第十六條

鑄造の限貨金は第七條に遵ふ所

第十七條

一圓銀鑄造の材料は百分の百百二あり

第十八條

大板を深くの外名用花柄を打て銀地を打出し一圓銀鑄造の材料は百分の百十三條より續くは之を倍あり

第十九條

此規則實際試験の三要用と爲す處は之を何時も於此に追加せしむ

右に通相定事

辛未四月

